

1. 科目名(単位数)	地域看護学 (2単位)	3. 科目番号	EDHE3315
2. 授業担当教員	高橋 登志子		
4. 授業形態	講義、ディスカッション、インタビュー調査、発表、グループ学習等	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	「衛生学」「公衆衛生学」を履修条件とする		
7. 講義概要	<p>地域看護の理念・目的、対象、方法の概要を学ぶ。また、地域看護の方法の中で特に健康教育を取り上げ、活用される理論と方法の基礎を理解する。地域看護とは、生活の場としての地域社会と住民の健康を保持増進するための看護活動であり、「地域保健 (CommunityHealth)」「公衆衛生看護学 (PublicHealthNursing)」と同意語である。</p> <p>家族が生活を営む地域 (Community) の保健医療・福祉行政施策 (サービス) と保健看護諸活動の実際を体系的に学ぶ。この包括的看護活動は、地域住民のよりよい健康安全とそれを支える地域社会・環境を総合する働きかけにより実践されるものである。母子保健、成人保健、老人保健、環境保健、精神保健、地域保健行政施策、地域診断 (地域の健康評価) 等、広域的な内容が含まれる。地域医療機関で行われる「臨床看護実習」、地域福祉施設で行われる「ソーシャルワーク実習」「保育実習」等を介して、包括的看護活動を行う実践力を身につけ、養護教諭、社会福祉士、精神保健福祉士、保育士などとして地域看護活動を基盤にそれぞれの専門性を発揮する能力を養う。</p>		
8. 学習目標	<p>以下について学習、理解し、説明できるようになることを学習目標とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 地域看護の理念・目的、対象、方法の概要を理解する。 2 地域における健康教育について理解する。 3 学校保健と地域保健の連携について理解する。 4 子どもの権利条約を通して子どもの権利をより深く理解する。 5 一人親家庭の生活実態や子どもを巡る諸問題について理解する。 6 地域ネットワークについて面接調査を計画し実践する方法を学ぶ。 7 ニーズを実現するための社会資源の活用や他職種との協働等支援の方法を理解する。 8 以上を通して、児童生徒がどのような環境で生育するのかを理解し、多様化した現代の社会にあって養護教諭に求められる役割と機能を十分に理解する。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>A4 / 1000 字程度 授業内に提示する。</p> <p>課題1 地域社会と地域看護について考え、地域住民の健康の把握方法についてまとめる</p> <p>課題2 子どもの権利条約を精読し日本に与えた影響について考察する</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 鈴木路子編著『教育の基礎としての公衆衛生看護ノートー地域のための教育・保健福祉・心理の融合』教育家庭新聞社,2014 2 岩波ジュニア新書『子どもの権利条約』岩波書店、2013年3月 <p>【参考書】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 『学校保健動向』学校保健会 		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 地域看護の理念・目的、対象、方法の概要を理解することができたか。 2 地域における健康教育について理解できたか。 3 学校保健と地域保健の連携について理解できたか。 <p>○評定の方法 (下記を総合して成績評価をする。)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業への積極的参加態度 (30%) 2 授業ごとに提出する授業への振り返り (30%) 3 小テスト・課題レポート (40%) <p>上記のほかに、本学の規定に定められている3 / 4 以上の出席が単位の修得の条件とする。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>地域看護学は、住民の健康把握・ニーズ調査、各種統計資料の収集・分析・解説を含めた攻守上雨声の一部である。この領域は精神保健学・学校保健学・環境保健論・養護教育学及び社会福祉等多くの関連領域との連携が必須である。これらを相互に学びながら。新たな視点を発見し、児童生徒の健康を把握し、問題に対応し管理実践・教育実践活動がいかに重要であるかを学び、その実践力を身につける。</p> <p>子どもを取り巻く環境は複雑多様化している。このような環境が子どもの健全な成長と発達にどのような影響を与えているか子どもの置かれている実態から理解を深めてほしい。教科書を購入のこと</p>		
13. オフィスアワー	別途連絡する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	序章 地域看護とは何か - 公衆衛生における地域看護 (地域保健) 活動の役割と意義 -	事前学習	教科書 序章を読み、地域看護学 (公衆衛生看護学) の全体像を把握する
		事後学習	学校看護と地域看護の役割、連携を認識し、具体的な目的・対象・方法を自らの言葉で表現する
第2回	地域社会と地域看護の考え方 - 人の暮らしと健康 課題1 地域社会と地域看護について考え、地域住民の健康の把握方法についてまとめる	事前学習	教育実習先の地域社会を想定する
		事後学習	地域保健法を基盤に行われる地域住民の健康把握の方法を整理する

第3回	II第3部 地域における健康教育（他職種と連携・協働）	事前学習	教科書II第3部学校健康教育と地域における
		事後学習	健康教育を読み、他職種と連携・協働する大切さをまとめる。
第4回	学校保健と地域保健の連携（1） 感染症対策、健康危機管理対策	事前学習	地域の保健センター・保健所等の資料を収集する
		事後学習	各種情報を入手分析、まとめ、討論を行った結果をまとめる
第5回	学校保健と地域保健の連携（2） 性教育、母子保健対策	事前学習	保健師と養護教諭の連携について支援事例を調べておく
		事後学習	思春期保健対策として課題解決策を考える 地域保健法・学校保健法・母子保健法等関連する法律を精読し重要な条文を整理する
第6回	学校保健と子ども家庭福祉の連携 第1章 子ども家庭支援と社会福祉 第2章 子ども家庭を取り巻く社会状況（子育て対策等）	事前学習	教科書第1・2章を読み、学校保健の基盤として、子ども家庭福祉の重要性を認識する
		事後学習	支援者として子どもに対峙するときの基本的姿勢について考察する
第7回	第3章 社会福祉の理念と権利保障 1. 子どもの権利保障の歩み 2. 子どもの権利の特徴 3. 子どもの権利に関する条約 課題2 子ども権利条約を精読し日本に与えた影響について考察する	事前学習	子どもの権利条約を読み、子どもの権利と生命・生活・生存の重要性を認識する
		事後学習	子どもの権利条約について、その時代的背景、条約制定の意義と目的、内容についてまとめる
第8回	第3章 社会福祉の理念と権利保障 4. 子どもを養育する権利と義務（児童憲章、親権について）	事前学習	教科書第3章を読み、子どもを養育する親の権利と義務について理解を深める
		事後学習	子どもの権利条約について、その時代的背景、条約制定の意義と目的、内容についてまとめる
第9回	第3章 社会福祉の理念と権利保障 5「ハーグ条約」について	事前学習	教科書第3章を読み、子どもを養育する親の権利と義務について理解を深める
		事後学習	「ハーグ条約」とは何か、日本が加盟することの意義と問題点についてまとめる
第10回	第4章 子ども家庭福祉にかかわる法体系 児童虐待対策とその課題について	事前学習	教科書第4章を読み、子ども家庭福祉の法体系の全体像を把握する
		事後学習	児童虐待対策について、事例を読みグループで話し合い、課題を見出す。
第11回	第5章 子ども家庭福祉にかかわる専門職 1. 専門職との協働 2. 教育機関の福祉専門職 3. 児童福祉領域の福祉専門職 等	事前学習	教科書第5章を読み、子ども家庭福祉にかかわる専門職とその機能を理解する
		事後学習	養護教諭が連携を深めておく必要のある専門職と連携する際の留意点についてまとめる
第12回	第6章 児童の社会的養護サービス 1. 社会的養護とは何か 2. 社会的養護にかかわる機関、施設 等	事前学習	教科書第6章を読み、社会的養護とその今日的課題を理解する教科書
		事後学習	里親制度の意義と現状、問題点についてまとめる
第13回	第7章 ひとり親家庭への支援 1. ひとり親家庭の概念 2. ひとり親家庭の状況 3. ひとり親家庭に対する社会的支援施策	事前学習	教科書第7章を読み、ひとり親家庭の現状について理解を深める
		事後学習	父母の離婚が子どもの心身に与える影響について、近年の動向も踏まえて考察する
第14回	第8章 子ども家庭福祉と地域ネットワーク 1. 虐待防止ネットワークの広がり 2. 要保護児童対策地域協議会、設置の効果・課題等 3. 出身市町村の現況調査の方法と計画を立てる	事前学習	教科書第8章を読み、地域ネットワークとその必要性を理解する。
		事後学習	出身地市区町村の要保護児童対策地域協議会の現状と課題を情報収集する地域協議会への養護教諭の関わり方を考察する
第15回	第9章 子ども家庭支援の実例 事例1：虐待事例への支援 事例2：不登校事例への支援	事前学習	教科書第9章を読み、子ども家庭支援の具体的実践事例を知る
		事後学習	事例2について、支援の長期目標と短期目標を立案する